

# 秋田県地域づくりワークキャンプ 湯沢市地域診断実習活動報告書

## 【実習期間】

第Ⅰ期：2025年8月22日～8月29日

第Ⅱ期：2025年9月13日～9月15日

第Ⅲ期：2025年10月11日～10月13日

## 【班員】

秋山 咲奈（慶應義塾大学薬学部4年）

一條 花（東北大学教育学部3年）

狩野 聖也（秋田大学教育文化学部1年）

東海林 明梨（秋田大学教育文化学部1年）

鈴木 心暖（国際教養大学国際教養学部4年）

照井 楓（秋田大学教育文化学部4年）

## 【コーディネーター】

菅 善徳氏（NPO法人 こまちハート・オブ・ゴールド）

## 目次

<b>1. 実習概要</b> .....	<b>4</b>
1.1. 目的 .....	4
1.2. 概要 .....	4
1.3. 実習日程 .....	5
<b>2. 秋田県湯沢市とは</b> .....	<b>7</b>
<b>3. 実習での経験</b> .....	<b>7</b>
<b>3.1. 第 I 期前半 (8月22日～25日)</b> .....	<b>7</b>
3.1.1. 第 I 期に向けて .....	7
3.1.2. 8月22日 .....	8
3.1.3. 8月23日.....	9
3.1.4. 8月23日.....	9
3.1.5. 8月24日.....	11
3.1.6. 8月25日 .....	13
<b>3.2. 第 I 期後半 (8月26日～29日)</b> .....	<b>14</b>
3.2.1. 8月26日 .....	14
3.2.2. 8月27日 .....	17
3.2.3. 8月28日 .....	18
3.2.4. 8月29日 .....	20
3.2.5. 第 I 期を振り返って .....	20
<b>3.3. 第 II 期 (9月13日～15日)</b> .....	<b>22</b>
3.3.1. 第 II 期に向けて .....	22
3.3.2. 9月13日 .....	22
3.3.3. 9月14日 .....	24
3.3.4. 9月15日 .....	24
3.3.5. 第 II 期を振り返って .....	25
<b>3.4. 第 III 期 (10月11日～13日)</b> .....	<b>25</b>
3.4.1. 第 III 期に向けて .....	25
3.4.2. 10月11日.....	25
3.4.3. 10月12日.....	26
3.4.4. 10月13日.....	28
3.4.5. 第 III 期を振り返って .....	28
<b>4. 各参加者の学び</b> .....	<b>29</b>
4.1. 秋山咲奈 (慶應義塾大学薬学部 4 年) .....	29
4.2. 一條花 (東北大学教育学部 3 年) .....	30
4.3. 狩野聖也 (秋田大学教育文化学部 1 年) .....	30

4.4. 東海林明梨（秋田大学教育文化学部 1 年） .....	30
4.5. 鈴木心暖（国際教養大学国際教養学部 4 年） .....	30
4.6. 照井楓（秋田大学教育文化学部 4 年） .....	30
5. 謝辞.....	30

# 1. 実習概要

## 1.1. 目的

本実習は『ローカルを共奏する「人つむぎ」プロジェクト』をテーマとし、ローカル（市町村より小さな範囲の地域）を住民・大学生がともに考え、活動し、関係性をつむいでいくことを目的としている。

また、湯沢市では以下3つの個別テーマを設定した。

- ・若者のスキルや発想を活かした人材育成プログラムを創出する。
- ・地域の若者団体と共に、住民が主役となる「ゆざわ未来づくり学校祭」を企画し、運営する。
- ・学生が、湯沢市に継続して訪れたいくなるような住民や地域組織との個々の関係性が構築される。

## 1.2. 概要

期間：

第Ⅰ期：2025年8月22日～8月29日

第Ⅱ期：2025年9月13日～9月15日

第Ⅲ期：2025年10月11日～10月13日

場所：秋田県湯沢市

主な活動内容：

第Ⅰ期前半（8/22～25）：院内地区（まちあるき・体験・交流）

第Ⅰ期後半（8/26～28）：秋ノ宮地区（まちあるき・体験・交流）

第Ⅰ期最終日（8/29）：住民向け説明会

第Ⅱ期（9/13～15）：未来予想ワークショップ、「ゆざわ未来づくり学校祭」企画

第Ⅲ期（10/11～13）：「ゆざわ未来づくり学校祭」準備・実践・振り返り

コーディネーター：

菅 善徳氏（NPO法人 こまちハート・オブ・ゴールド）

### 1.3. 実習日程

実習期間：

第Ⅰ期：2025年8月22日～8月29日

	午前	午後
8/22(金)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 院内駅集合</li><li>・ ピザづくり体験</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域の歴史講座</li><li>・ オリエンテーション</li></ul>
8/23(土)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ まちあるき</li><li>・ 取材&amp;記事づくり</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ いんないMIRAI農園収穫祭会場準備</li><li>・ いんないMIRAI農園収穫祭</li></ul>
8/24(日)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 写経体験</li><li>・ 農作業体験</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 取材&amp;記事づくり</li><li>・ 山形県新庄市のお祭りに参加</li></ul>
8/25(月)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ まちあるき</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 記事づくり</li><li>・ 院内地区振り返り</li></ul>
8/26(火)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ミズ収穫</li><li>・ お茶っこ参加</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ フレッシュマーケットすがでのフリーマーケット</li><li>・ 打ち合わせ</li></ul>
8/27(水)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ かご作り</li><li>・ 釣り堀</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 鷹の湯温泉清掃</li></ul>
8/28(木)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 成果発表会打ち合わせ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 成果発表会準備</li><li>・ 地域住民との交流会</li></ul>
8/29(金)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 成果発表会</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 解散</li></ul>

第Ⅱ期：2025年9月13日～9月15日

	午前	午後
9/13(土)	・横堀駅集合	・院内地区の未来予測ワークショップ ・地域住民とのBBQ交流会
9/14(日)	・各自取材、体験	・栗拾い体験 ・ゆざわ未来づくり学校祭準備
9/15(月)	・振り返り	・解散

第Ⅲ期：2025年10月11日～10月13日

	午前	午後
10/11(土)	・横堀駅集合 ・野菜の収穫	・ゆざわ未来づくり学校祭準備
10/12(日)	・午後のイベント準備	・秋ノ宮ネギまつり ・ゆざわ未来づくり学校祭 ・懇親会
10/13(月)	・振り返り	・スポーツ&健康フェスタ（希望者）

## 2.秋田県湯沢市とは

秋田県湯沢市は、山形・宮城県に隣接する秋田県の最南東部に位置し、県都秋田市まで直線距離で約70km、宮城県仙台市まで約95kmと、ほぼ中間点にある。隣接する両県とは、国道13号、108号及び398号で結ばれており、秋田県の南の玄関口となっている。

面積は790.91平方キロメートルで、秋田県の面積の約6.8%を占め、東方の奥羽山脈、西方の出羽丘陵に囲まれた横手盆地を貫流する雄物川と、その支流である皆瀬川、役内川沿いに豊かな水田地帯を形成。県境付近の西栗駒一帯は雄大な自然林となっているほか、豊富な温泉群にも恵まれている。

また湯沢市は、その名のとおり小安峡温泉、秋の宮温泉郷など温泉地が点在する「いで湯の宝庫」であり、「地熱のまち」である。国内では23年ぶりとなる大型地熱発電所「山葵沢地熱発電所」が稼働した。地熱の恩恵をうけ、山あいの秘湯や多彩な温泉はこの地ならではの旅情をつくりだしている。

また、全国に誇る特産品として、日本三大うどんとして有名な稲庭うどん、八百年の歴史をもつ川連漆器、全国的に有名な老舗のお酒などが有名。

## 3.実習での経験

以下に実習期間中の各施設での経験を示す。

### 3.1.第Ⅰ期前半（8月22日～25日）

#### 3.1.1.第Ⅰ期に向けて

実習開始に伴い、コーディネーターの菅善徳氏、秋田県庁、湯沢市役所の皆様、地域住民の皆様、参加学生で顔合わせzoomを行った。

1回目：7/24(木) 18:00~19:00（参加学生2名）

2回目：7/25(金) 11:00~12:00（参加学生4名）

配布されていたプロフィールシートをもとに自己紹介を行い、第Ⅰ期から第Ⅲ期までの流れを説明していただいた。

### 3.1.2. 8月22日

#### ・ピザづくり体験、地域の歴史講座

新幹線の遅延により参加できなかったため、省略。

#### ・オリエンテーション

第I期前半では秋田県湯沢市院内地区を拠点に活動した。その期間の地域のイベント（いんないMIRAI農園収穫祭・まちあるき・写経）と院内に関わりが深い方々を学生が1対1で取材をし、計2つの記事の公開を目標に4日間過ごした。

そこで、講師として参加されていた合同会社イーストタイムズの天野崇子さん、畠山智行さんから『あなたの「好き」を発信しよう!』というテーマのもとローカリティ!スクールが開かれた。特に田舎では、「自分の地元には何もない」という人が多いが、日常の中に面白いものは溢れており、街は「魅力」の宝庫!という言葉が印象に残っている。

イベントレポートは8月23日~24日で開催される、いんないMIRAI農園収穫祭、院内のまち歩き、写経体験の3つの中で、学生が1つのイベントにつき2人担当するという形で担当を決めた。

人のストーリーレポートは8月23日~24日の中で以下の6人に取材を行った。木村淳子さん（きむらや社長夫人）、鎌田直美さん（湯ノ沢温泉女将）、長谷川由美さん（秋美卒盆宿U勤務）、鈴木千春さん（仙台市在住関係人口）、小松さん（雄勝椎茸栽培組合）、会田一男さん（院内地域づくり協議会会長）の6人に学生が1対1で取材し、レポートを作成した。

自分自身が感じ取った「驚き・発見・感動」がレポートを作成する上で最も大切であり、それを他の人たちに伝えるためにはどのような工夫をするべきか、考える時間となった。

#### ・学生振り返りシート抜粋

- ・地域の魅力を伝えるのは「遠くのプロより、現地の住民」という言葉が印象に残った。
- ・関わってくださる地域の方々が、みな楽しそうに参加されていることが印象的だった。
- ・インタビューや地域の方々との対話で相手の気持ちを深掘りすることによって、その人の地域に対する思いや魅力を引き出していきたい。そしてそれを言語化し、記事を通して伝えていきたい。

- ・「私達自身が楽しむことが楽しい地域を作り、人々を引き寄せる」という言葉が素敵だなと思った。

- ・高齢者は壁となり、若者がこれから作っていくという言葉が印象に残った。あくまで、これまでその地域を作ってくださったのは高齢者の方々。その方たちが厚いサポート役として壁を作ってくださり、私たち若者がその基盤を守ったうえで新しい形でその地域を作っていく。この考え方に共感を持った。

- ・会田さんのお話の中で「地域の子供は地域で育てるもの」という言葉が印象に残っていたため、二枚目の記事でも会田さんの取材に立候補させていただいた。



### 3.1.3. 8月23日

#### ・まちあるき

院内地域ガイドの佐藤順子さん、院内地域づくり協議会の会田一男さんの先導のもと、院内地域のまちあるきを行った。学生のほかにも院内地域づくり協議会（高齢者団体）やいんない未来塾（若者団体）のみなさんを含め、計20~30名ほどが参加した。

院内地区は、江戸時代初期から明治時代後期にかけて、日本有数の銀山町として発展した地域である。訪れたのは、院内銀山史跡、院内銀山三番供養墓地、御幸坑、岩井堂洞窟の4か所。

秋田県の指定史跡にもなっている院内銀山三番供養墓地では約3000と推定されるほど多くの方が葬られている。中には、子分が親分のお墓を作ったり、好きなものや短歌を石に彫ったりしているものもあった。会田一男さんは、「この時代に遊び心があるっていいことだよ」と、その時代に隠された背景を教えてくれた。

岩井堂洞窟は、縄文・弥生・平安時代の三時代からなる複合遺跡で県内では数少ない洞窟遺跡です。洞窟は約80mに及ぶ凝灰岩の露頭に大小4か所（第1～第4洞窟）が並んでおり、いずれも縄文時代に住居として利用されていた。発掘調査は1964（昭和39）年から1976（昭和51）年までに8回行われており、第14層まで確認されているとのこと。佐藤順子さんは第8次調査に参加した経験があるそうで、「歴史が好きで、高校時代に所属していたクラブ活動の一環で参加した。かなり下まで掘っていった記憶がある」と仰っていた。

案内してくださった佐藤さんや会田さんの情報量とガイド力はとてもすごく、場所一つひとつの歴史やそこに込められた意味について、丁寧にガイドしてくださった。時には訪れた場所にある看板を使ったり、さらに、佐藤さんはスケッチブックに絵を書いたりして説明してくださった。私たちに伝えたい、少しでも興味を持ってほしいという姿勢が私たちを前のめりにさせたのだと感じている。やはり現地の方からの説明は何よりもわかりやすく、場所に対する熱量を感じ取ることもできた。

院内銀山は閉山から約70年経っているのにも関わらず、まだ車や人が通れるほど、整備されていた。一時期は”廃墟の世界”と呼ばれていたこの場所がなぜここまできれいな状態で保存され続けているのか。その背景には、「銀山を守ろう」とする老人クラブのメンバーみなさんの存在があった。何人かで集まり、年に数回草刈りなどを行い、場所の維持・保存に貢献しているとのこと。その一方で、雪や災害によってお墓が倒れてしまうことも

あり、それを起こすようなことはされていない現状や歴史や場所の保存する継承者の少なさが問題となっています。老人クラブ員の1人である会田一男さんは「自分たちもいつまでできるかわからない。このままだと草しか生えないかもな」と冗談交じりに、かつ寂しそうに胸の内を明かしてくれた。「院内がまた来たいと思ってもらえる場所に」今は会田さんたちを軸にした動きですが、大人たちが前のめりになるようなこの輪は、これから広がっていくと確信した。

#### ・いんないMIRAI農園収穫祭

院内地区センター広場で、いんないMIRAI農園収穫祭が開催され、我々も参加した。いんない未来塾のみなさんがセンター横で栽培している野菜を収穫するというイベントである。他にもかき氷やジンギスカンをみなさんが作る姿や射撃などのゲーム体験もあった。私たちはかき氷やジンギスカン、ラーメンなどを販売する役目もさせていただいた。「収穫した野菜の重さを当てましょうゲーム」で500gピッタリの野菜を収穫するというゲームにも参加させていただいた。湯沢翔北高校の生徒さんのみなさんも運営側で参加しており、「映えスポットde写真ラリー」を行っていた。院内地区にかかわる問題を出題し、正解したらそのスポットで写真を撮影、3カ所分集めたら景品がもらえるというイベントを開催していた。学校の総合探究の授業で参加していたようで、地域の人と積極的なコミュニケーションを図りながらはじける笑顔で大人気であった。

これらの楽しいイベントを行う上で大事にしていることは、「やっている自分たちが楽しい気持ちで行うこと」だそうだ。「運営している人たちが楽しくなければ、参加者が楽しいわけがない!」、院内の人々は口をそろえて、こうおっしゃっていた。地区の高齢者の方々は「大きなものを求めに一度外に出たってかまわない。俺たちはまたここに戻ってきたいと思ってもらえるように子どもたちを子どものうちに楽しませる努力をするだけだ」とおっしゃっていた。現状、院内地区では、Uターンで地域づくりを行っている人がたくさんいる。院内を楽しい場所だと思ってもらえるように楽しんでいる大人たちであふれるまちであった。このようなイベントは多世代間交流の場として、多くの住民の憩いの場となっていた。

#### ・学生振り返りシート抜粋

・みなさんが口をそろえて院内の良さを人の温かさ、人情と答えていたことが印象に残っている。

・減反政策だったり人が出稼ぎのために外へ流れていったりする状況の中で、同級生三人とのお嫁さんが、しいたけ栽培を「しょうがなく始めたもの」ではなく、「愛情を注ぐ対象として続けていきたいもの」として続けてこられたんだなと感じた。

・地域づくりに限らず、やっている側がやりたい、楽しいと心から思っただけでなく、実際にその土地やお祭りといったイベントに訪れる人々も心から楽しむことができるのではないかと思った。

・何事においても自分から知ろうとすることで新たな発見が得られるのではないかと考えた。

・「院内のいいことを記事に書かないで!」という言葉。若者の意見を取り入れたい!院内をもっとよりよくしたい!そんな思いが伝わってきた。柔軟な考え方を持っている高齢の方がいらっしゃる院内の可能性が見えた。

・大人になった会田さん自身も子供たちに「院内にはこれがあるんだよ!」と自慢できるような地域づくりを心掛けているそうで、その一つにジオパークも含まれているそうだ。自分の経験から目指す場所を明確に定められていて素敵だなと思った。



### 3.1.4. 8月24日

#### ・写経体験

朝7時から秋田県湯沢市の仏教寺院、誓願寺で写経体験が行われた。誓願寺では浄土宗が信仰されており、今回は浄土宗の教えについて述べられた文章「一枚起請文（いちまいきしょうもん）」のなぞり書きをした。鳥のさえずり、セミや犬の鳴き声が響く中、一人一人が字と自分自身と向き合う貴重な時間となった。

写経体験が終わった後にはお母さん方から精進料理のふるまいがあった。込められた意味や秋田の郷土料理をいただいて、朝から心も体も軽くなったような気がする。

#### ・農作業体験

いんないMIRAI農園に白菜、インゲン、さやえんどうを植える体験をした。実際に昨日収穫した場に自分で植えるという体験ができて楽しかった。第Ⅲ期で訪れたときに収穫ができるといいねというお話があり、とても楽しみの1つとなった。

#### ・ミーティング

怒涛の毎日をお過ごす中で、学生だけで話す時間が欲しいとコーディネーターの方に相談し、これまでの日々で個々が感じていることを共有する時間を設けた。このワークキャンプになぜ参加したのか、今後どのように過ごしていきたいかをお互いに話すことで、自分自身が思っ

ていたことを言語化することで整理できたり、他のメンバーの考えを知ることができたりする時間となった。自分たちで発信してこの時間を設けられたことは良かったと思う。

・記事づくり

今日までに行ったイベントの体験や取材をもとに記事作成を進めた。イーストタイムズのお2人に校閲をしていただきながら、各自が記事作成に向き合った。

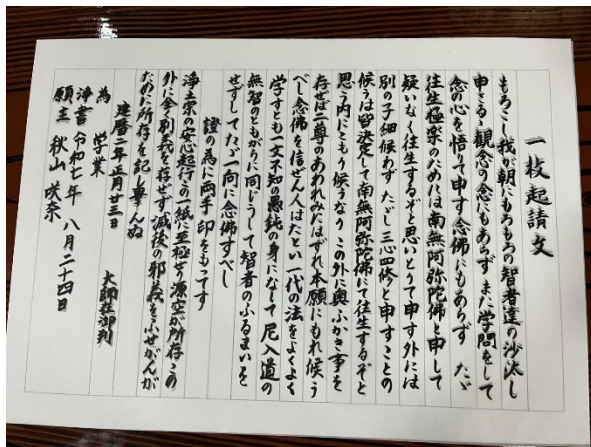
・山形県新庄市の新庄祭りへの参加

屋台を楽しみながら、町内会別に大きなおみこしを担ぎ、笛や太鼓で演奏しながら町を歩くという伝統ある祭りも見ることができた。行き来の間には大学生間でプライベートな話も増え、関係性が深まってきたように思う。

・学生振り返りシート抜粋

・お寺の概念が変わった。誓願寺は亡くなった人よりも、むしろ生きている人を後押しするような場所。

・見出しで最初の10文字が大事ということ。記事を読んでもらうためには最初の10文字で興味を引くことが必要であり、そのためには、自分の感動を簡潔に表す、独自性があり、インパクトのある見出しにすることが必要だと思った。





### 3.1.5. 8月25日

#### ・まちあるき

院内石切り場に行き、壮大な光景に感銘を受けた。その後、院内地区センターの2階にも行き、今までの院内を思い出させるような写真や現物が当時のまま残されていた。いんない地域づくり協議会のみなさんが小学校の頃の写真もあり、学生で盛り上がったことを覚えている。

#### ・院内地区振り返り

ずっと進めていた記事の共有と院内地区の振り返りを行った。この日をもってイーストタイムズのお2人と院内地区のみなさんとはお別れだったので、学生一人一人から感謝の言葉を伝えさせていただいた。院内地区のみなさんからとても刺激になった、充実していたとお言葉をいただき、非常に嬉しかった。

特に院内地区では高齢者の方々と関わる機会が多かったが、みなさん本当によくしてくださる方ばかりで、私たちが温かく迎え入れてくださったことに心より感謝申し上げます。

#### ・秋ノ宮地区での活動に向けて

この日の夜に秋ノ宮地区に移動し、ここからコーディネーターの1人として参加される株式会社ETICの押切真千亜さんの紹介があった。ここでは中間報告会をどのような時間に行いたいと思っているのかの共有もすることができた。院内地区での素敵な経験を経験していない人に伝える難しさやもどかしさ、秋ノ宮地区での活動に向けて気持ちを切り替えられるのかという不安を感じながらも頑張りたいと思った院内地区最後の日だった。

### ・学生振り返りシート抜粋

・会田さんが何度も顔を出してくださったり、佐藤さんが漬物とスイカを持ってきてくださったり、院内で多くの方々に協力いただいて充実した活動ができていたのだと、改めて感じることができた。

・何か活動をするときに、「快適に過ごすため」「安心して暮らすため」「ここで結婚するため」というような理由は、なぜだか優先順位が低くなるように思いますが、こういうことこそ大事なのではないかとも思うようになった。

・地区センターの方々が最後の一言でおっしゃっていた、「大学生目線の意見に自分たちは気づけなかったからとても新鮮だった」という言葉が印象的だった。



## 3.2. 第 I 期後半（8月26日～29日）

### 3.2.1. 8月26日

#### ・ミズ採り、お茶っこ

この日から秋ノ宮地区の若者団体であるAsov!vaのみなさんが参加して下さった。山菜のミズを山の麓に行き、みんなで採った。その後、秋ノ宮の役内という場所で定期的に行われているサロンに参加させていただいた。これは秋田弁で言う「お茶っこ」のような雰囲気でおばあちゃんたちが年に何回か集まり、ゆったり食べたりおしゃべりしたりする会とのことであった。その1回にお邪魔させていただき、一緒にミズの処理から漬物やお味噌汁を作る体験をさせていただいた。出来上がってからみなさんと一緒に食べる卓上にはそれぞれが作ったオリジナルの漬物や寒天も並んでおり、みなさんの個性が出るような食卓だった。話によると、自分が作った自慢の料理を持ち寄ってシェアするという会もあるとのことだった。少しでも時間があるとおばあちゃん同士が向かい合って楽しそうに手を叩いて笑っている姿も見受けられた。普段なかなか外に出歩いてコミュニケーションを取る機会が少ない世代にとって、サロンは心のよりどころ、定期的な楽しみになっているよう

に感じた。

#### ・フレッシュマーケットすがでのイベント

空き店舗になっているフレッシュマーケットすがでAsov!vaのメンバーを中心に开店してお店を開くイベントが行われているところに参加した。このイベントについての告知はあえて一切しておらず、通りすがりの方などに興味をもってきていただければなという想いで試験的に開催していたようだ。

空き時間にはAsov!vaのメンバーであり、株式会社KAMUROの社長でもある菅道悦さんとお話する時間があった。湯沢で農業がしたいという思いで立ち上げた会社で、今は関係人口の構築に尽力されている。「のの！プロジェクト」という県内外から農業を体験したいという人を募るプロジェクトに参加されているようで、「100人来てくれたうちの1人でも住んでくれたら嬉しい」とおっしゃっていた。

また、私は以前コーディネーターである菅さんに「医療に興味があるけれど、このプログラムは医療とは切り離して考えている」というお話をしていたこともあり、空き時間に地域医療コーディネーターの斎藤かずこさんとお話する機会をいただいた。斎藤さんが理想としている地域づくりと私が思描いているものが同じで、とても話が弾んだ。「トライ&エラーではなく、トライ&チェンジ」という言葉がとても印象に残っている。

#### ・学生だけのミーティング

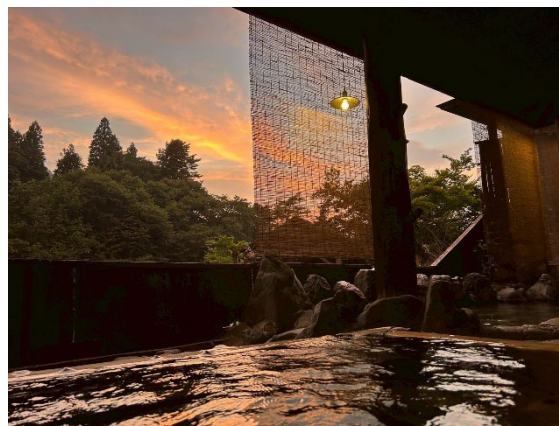
中間報告会をどのような形にするか本格的に話し合った。地域の方々にどんなことを知らせたいか、どんな媒体で、形式で伝えるのが一番伝わるか、時間配分など考えることはたくさんあった。また、この活動に関わってくださった方に感謝を伝える場面は住民交流会で用意されているので、中間報告会の目的は不特定多数の地域の方々にこのワークキャンプで私たちが感じたこと、考えたこと、今後やりたいことを伝える場であるということ。さらには一方的な発表ではなく、気持ちを伝えたいうえでさらに考えを深められる場にしたい、双方向の場にしたという意見もあった。報告会に用意された時間はたった一時間であり、私たちの話し合いの時間もタイトなスケジュールの中で十分に確保できず、それぞれの想いがあふれる白熱した話し合いとなった。結果的に院内地区、秋ノ宮地区、その他の方にも自分たちがこの1週間で感じたことを伝えながら、一緒になって意見を交換できるポスターセッション形式での発表がいいのではないかという結論になった。

#### ・学生振り返りシート抜粋

・KAMUROの菅さんの役内の神輿を復活させるという話で、お祭りで自分が子供の頃に感じた面白さや楽しさを味合わせたいという思いが印象的だった。

・「人口増加と地域の魅力の保持のバランス」という言葉。人口増加＝絶対的に良いことではないと改めて感じたから。

・押切さんに聞いたブレインストーミングの応援する、否定しないというある程度の目的を設けることで、進めやすくなるなど感じた。あらかじめそれを伝える時間はやり方が模造紙になっても必要だなと思う。



### 3.2.2. 8月27日

#### ・かご作り

本来は農作業をする日だったが、あいにくの雨だったため、農作業で使うPPテープでのかご作りをさせていただいた。株式会社KAMUROの社員である小野塚真美さんに教えていただいた。黙々と作業する姿を見ながら、自分も丁寧に進めた。みんなで一つのことをやるとなると進捗や器用さに差が生じるものの、お互いにアドバイスをしたり、補い合うことでうまくいくということを感じることができた。

#### ・釣り堀

学生の釣りをやってみたい！という一言を汲んでくださり、釣り堀に行った。イワナを一人三匹釣らせていただいて、なかなか都内ですることはないのでとても新鮮な体験だった。その後そのお店で釣った魚を唐揚げ、塩焼き、さしみでいただき、他ではできない体験となった。

#### ・マタギの方のお話

秋田県をはじめとする東北では熊の被害が後を絶たず、問題となっている。コーディネーターの1人である湯沢市役所職員の鹿角将良さんはマタギのメンバーである。今回は長年秋ノ宮でマタギをされている菅道悦さんからお話を伺った。今となっては熊の出没が身近の話になってきてしまっているが、数年前までは私たちの日常生活を脅かすような生き物ではなかったし、それを守ってくださっていたのがこのマタギの方たちだということを実感した。狩りの際の写真や動画も拝見させていただき、普段なかなか聞くことのできない現場のお話を短い時間ではあったが、伺うことができた。

#### ・鷹の湯温泉清掃

秋ノ宮地区に移動してきてから宿泊していた鷹の湯温泉の清掃活動に参加させていただいた。鷹の湯温泉は長年の歴史を誇る秘湯として有名であるが、観光客が少ないことや後継ぎ問題なども重なり、集客に難儀している状況であるということ伺った。広い館内を基本的に女将さんとその旦那さんの二人で管理していることや、まだ小さなお子様もいらっしゃるため、管理を完璧にこなすのが難しいということだった。10名近くでやっても1時間以上かかる清掃を普段は2人とお手伝いの方何人かでされているということで、とても大変だと感じつつ、代々続いている場所だからこれからも大切にしていきたいという女将さんの言葉が印象的だった。私たちもこのワークキャンプとしては期間が限られている中でできるだけ力になりたいという思いが芽生えた。

#### ・学生振り返りシート抜粋

・自分がこうだったらいいなと思うことをやってみて、それで人と繋がることができればいいし、そうでなくても悔しいからやり続けてみるとかっていうことをしていると、それが自然と地域の魅力の一つになっているということがあること。

・菅道悦さんの「最終的には人の縁」という言葉が印象的だった。



### 3.2.3. 8月28日

#### ・成果発表会打ち合わせ、準備

コーディネーターの方に自分がこの1週間で何を感じて、何を考えて、地域のみなさんに何を伝えたいのかを言語化しながら、模造紙に何を書くか、どんなことをみなさんと話したいかを決めていった。それぞれの学生が自分のやりたいように進めて、成果物が出来上がっていく様子はこの1週間の象徴だなと感じた。少しでも多くの方に私たちの思いや感謝が伝わればいいなと思った。

#### ・地域住民との交流会

鷹の湯温泉で、院内地区・秋ノ宮地区でお世話になった方々が集まってくださった。各テーブルに学生が1人以上いる形でスタートし、途中からは全員が移動しながら話す場となった。最初に院内地区のいんない地域づくり協議会会長の会田さん、秋ノ宮地区の株式会社KAMURO社長の菅さんと同じテーブルになり、お2人とも掲げている目標は同じで、少しでも多くの人に関わってもらいたいという熱い思いを感じ取る事ができた。院内地区と秋ノ宮地区で分かれてはいるものの、一緒に活動することも多々あるようで、みなさんの交流の場としても充実した時間となった。最後には学生一人一人から思いを伝えさせていただく場面もあり、どこまで伝えられたかはわかりませんが、感謝の気持ちを伝えさせていただいた。

#### ・学生振り返りシート抜粋

・医療の話をしていただいたときに、「秋田県はこれから高齢者が亡くなる一方だからこそ、子どもに対する支援や産科を増やすなど、安心して子供を産んで、育てられる環境を

整えるべき」だと仰っていたことが印象に残っている。

- ・大学生のことをどんどん巻き込んでくれて、緊張していたけれど本当に嬉しかった。



### 3.2.4. 8月29日

#### ・成果発表会

限られた時間の中で最大限の準備をして臨んだ。1時間の中で40分程度ポスターセッションの時間にした。全員とお話することはできなかったものの、「東京から来たんだね」「薬学部なのになんで？」と興味を示して声をかけてくださる方も多く、自分がなぜ来たのか、ここで何を学んだのか、これからどうしていきたいと思っているのか、など思いの丈を話すことができた。途中の出入りが自由だったため、正確な人数は分かりませんが、約50人の方が私たちの発表を聞きに来てくださった。それほど関心を寄せて下さっていることに驚きながらも、自分たちがどれほど影響力のある活動をしていたのか、また今後も注目される存在なのかを感じることができた。

#### ・振り返り、解散

成果発表会が終わった後、コーディネーターの方と学生で振り返り会を行った。全員やり切った気持ちもあり、不完全燃焼に終わったという気持ちもある複雑な思いではあったが、また1か月に会えるとは言っても悲しいと感じるほどの経験ができた。最後には学生全員で涙を流し別れた。院内駅のお見送りにはコーディネーターの方だけでなく、院内地区・秋ノ宮地区の地域の方が数人来てくださって、最後の最後まで愛を感じることができた。

#### ・学生振り返りシート抜粋

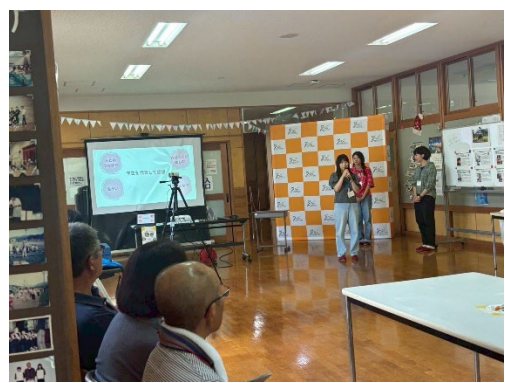
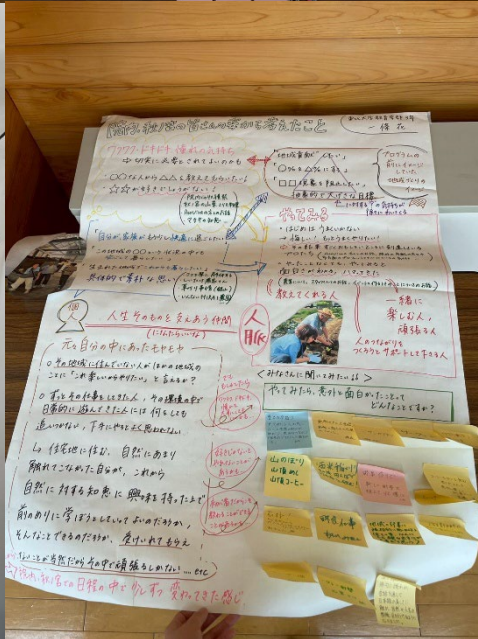
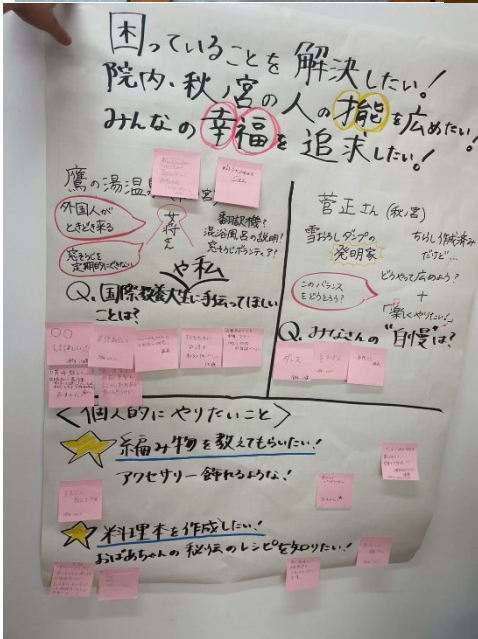
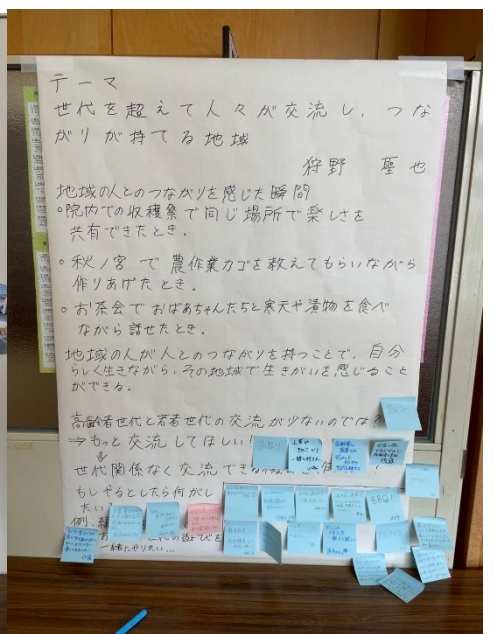
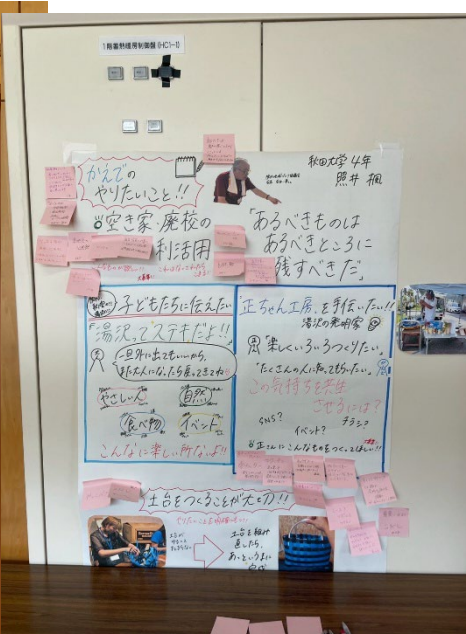
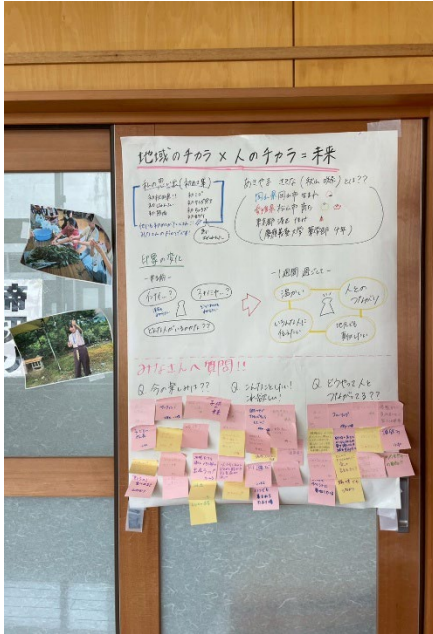
・秋田県庁の藤田さんが最後に「湯沢に来てくれたのがこの6人で良かった」と言ってくださったことが本当に嬉しかった。

・うまく喋れないときにスタッフの方々が場を和ませてくれたこと。

・今院内や秋ノ宮にいる人はそこが良い場所だと思っているからいる。ほしいものはない。外の人たちにいい場所だと思ってもらえるような工夫をするだけというお話が印象に残っている。

### 3.2.5. 第Ⅰ期を振り返って

第Ⅰ期は大きな不安と楽しみが入り混じった状態で参加したが、初日から本当に地域のみなさんが温かくて、優しくて、一瞬で緊張が解れました。毎日朝早くから夜遅くまで活動がある中で、自分で整理しきれないところも多くあり、悩んだこともありました。その度に相談できるコーディネーターの方や学生メンバーがいて、本当に心強かったです。私以外東北出身、文系の学生ばかりで不安なところもありましたが、医療と離れて、地域づくりに目を向ける機会をいただけたことは私の人生の中で大きな財産となりました。私たちのために尽力して下さるコーディネーターの方、地域のみなさんのおかげで不安だった第Ⅰ期が楽しく、充実したものになりました。第Ⅱ期、第Ⅲ期とみなさんにお会いできることが楽しみです。より自分のカラーを出して、湯沢のためになる活動ができたらいいなと感じています。本当にありがとうございました。



## 3.3. 第Ⅱ期

### 3.3.1. 第Ⅱ期に向けて

第Ⅱ期に向けて学生間で相談し、ミーティングを2回行った。1回目は8/31(日)21:00~第Ⅰ期の振り返りとして、今感じていることや第Ⅱ期で自分がやりたいことの考えなどを共有する時間を設けた。Zoomにはコーディネーターのみなさんも参加してくださり、時折チャットでコメントしてくださる様子も伺えた。2回目は9/4(木)21:00~第Ⅱ期に向けてコーディネーターの方から日程の説明があった。

### 3.3.2. 9月13日

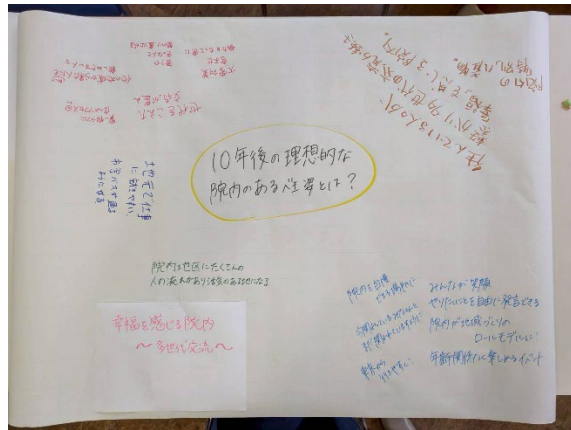
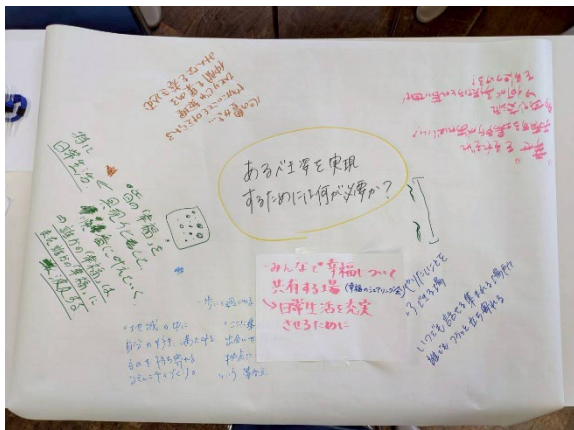
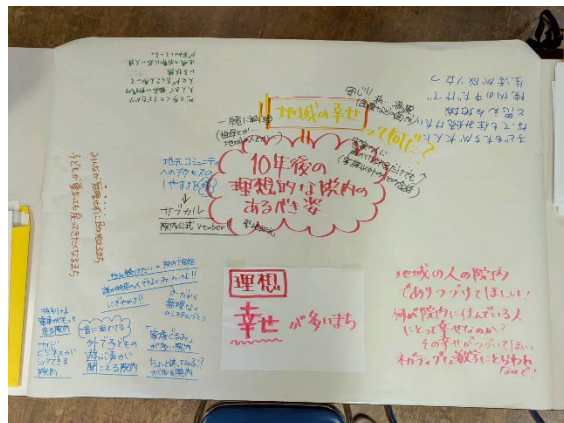
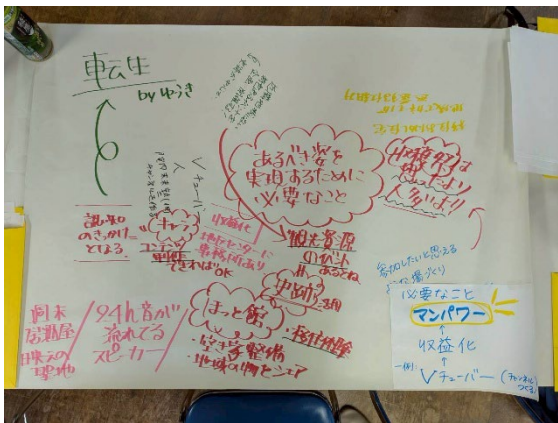
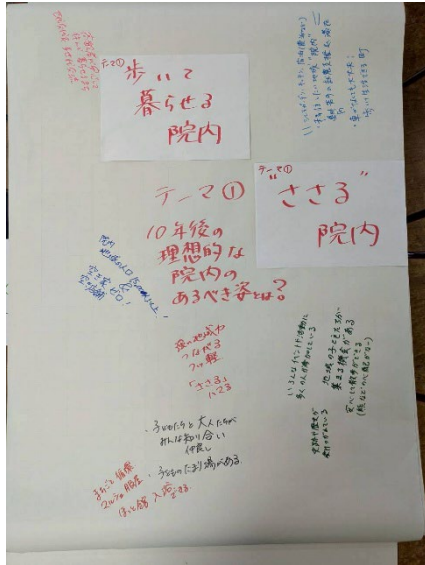
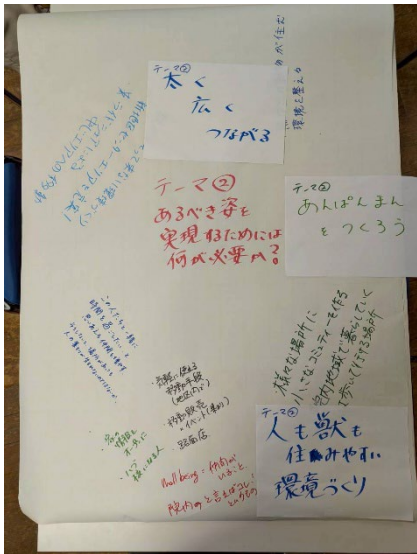
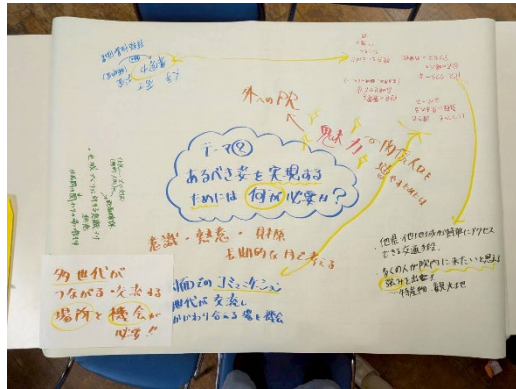
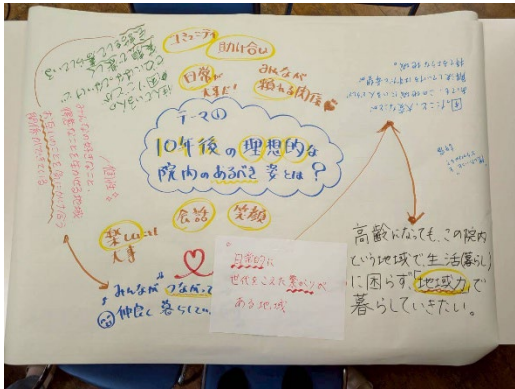
#### ・ 院内地区の未来予測ワークショップ

集合してお昼ご飯を食べたのち、院内地区センターでいんない未来塾の方々と院内の現状と課題把握ということで、おがち集落支援員の本村和美さんから主に数字を使って学んでいった。少子高齢化が顕著に進んでいることなどを踏まえて、今後どんな場所にしていきたいかを班で話し合い、その意見を別の班に行って交流し、深めるというものだった。テーマ①は10年後の理想的な院内のあるべき姿とは？テーマ②はあるべき姿を実現するために必要なことは？各班で耳に残るキャッチーなキーワードがさまざま出されて、とても活発的な時間となった。またここでどんなことが求められているのかを再確認して、今後の活動につなげていけると思った。まだ第Ⅰ期でしか院内のことを知れてはいないものの、いんない未来塾のみなさんと同じ立場で意見交換ができる機会はとても貴重な時間となった。

#### ・ 地域住民とのBBQ交流会

ワークショップに参加した院内地区のみなさんのほかにも、Asov!vaメンバーのみなさんが何人か参加してくださり、BBQを行った。第Ⅰ期で話したかったけど話せなかった方や第Ⅱ期から参加してくださる方と自由にお話する時間で嬉しかった。私は特におがち集落支援員の本村さんと第Ⅰ期でなかなかお話しできず、第Ⅱ期ではお話ししたいと思っていたので、お話できてよかった。集落支援員のお仕事について丁寧に教えていただき、いろんな側面から多くの方が関わっていることを知った。





### 3.3.3. 9月14日

#### ・各自取材、体験

午前中は第Ⅲ期のゆぎわ未来づくり学校祭に向けて自分自身が足りていないと思う取材や体験をさせていただいた。私は編み物を習いたいという思いから雄勝スポーツセンターで手芸教室を開いている先生に教わっていた。自分の好きなように、好きなことをして過ごせる時間がいいたと教えてくださった。

#### ・栗拾い体験

午後はAsov!vaのメンバーであり、湯沢市観光協会の事務局長をされている眞木竜助さんが勤めている栗農園にお邪魔して、栗拾いを体験させていただいた。非日常の体験ができて非常に楽しい経験となった。

宿に戻り、栗の処理から夜ご飯の準備をみんなで行った。自分が拾った栗は東京に持ち帰れるとのことで、剥き方を教わり、みんなで話しながら取り組む自由な時間だった。宿にはAsov!vaメンバーである5人が来てくださって、一緒に夜ご飯を食べながらお話をできた。なぜみなさんが地域づくりに興味があるのか、今後どのようなことをしていきたいのか、お話をお伺いして、自分もどこかで関われたらいいなと強く思った。



### 3.3.4. 9月15日

#### ・ゆぎわ未来づくり学校祭準備、振り返り

第Ⅲ期に向けて自分のブースでどのようなことがしたいか、コーディネーターの方とも相談しながら、いろいろな思いを巡らせた。私はこの第Ⅰ期、第Ⅱ期を通して、1番に「これからも湯沢と関わりたい」という思いがあったからこそ、そこにどうしてそう思ったのか、印象に残っていることは何か、どのように関わっていきたいのかを肉付けさせる時間になった。ただ自分の中でどこか、プロジェクトの延長になってしまっていて、最終形態として形に残らないのではないかと不安が残る状態での第Ⅱ期終了となってしまった。

### 3.3.5. 第Ⅱ期を振り返って

第Ⅱ期は3日間ということもあり、あっという間に過ぎ去りました。第Ⅰ期で関わった方ともより交流を深めながら、第Ⅰ期であまり関われなかった方との交流が印象的でした。第Ⅰ期では秋ノ宮地区のAsov!vaメンバーとプライベートな話をする時間が取れなかったのですが、みなさんのご厚意で宿に来てくださり、いろんなお話ができたことで、その人自身のことも知る事ができ、関係性も深められたと感じています。第Ⅱ期までで構築してきた素敵な関係性を第Ⅲ期でも爆発させて、より多くの人に私たちの経験や思いを伝えられたらと思っています。

## 3.4. 第Ⅲ期

### 3.4.1. 第Ⅲ期に向けて

第Ⅲ期のゆざわ未来づくり学校祭お知らせチラシの準備を鹿角さんがしてくださる中で、わからない文脈やこの方向性がいいのではないかという助言を多くいただき、連絡を取り合いながらチラシを作成していただいた。この期間は学生間での相談zoomを行ったり、自分で連絡を取って、コーディネーターの方とゆざわ未来づくり学校祭をどのように作り上げていくかの相談をさせていただいたりして過ごしていた。私はコーディネーターの菅さん、鹿角さんだけでなく、第Ⅰ期のときにお世話になった天野さんや押切さんにも連絡を取り、相談させていただき、自分自身の思いを形にする難しさを感じながらも納得のいく結論を出すことができた。

### 3.4.2. 10月11日

#### ・野菜の収穫

第Ⅰ期のときに植えた野菜をみんなで収穫した。どれも十分に育っており、自分たちがたねや苗から植えたものがたった2か月で食べられるようにまで成長していることに驚きを感じた。育てる過程はいんないMIRAI農園の方々が行ってくださり、本当にありがとうございました。

#### ・ネギ祭り&ゆざわ未来づくり学校祭準備

ゆざわ未来づくり学校祭と同時に開催されるネギ祭りのお手伝いをした。焼き鳥の串打ちやネギのまとめ作業をしているメンバーもいれば、学校祭の自身のブースの準備や大変なメンバーの手伝いをするメンバーもいた。次の日、全員がやり切ったと言える時間になればいいなと感じた。



### 3.4.3. 10月12日

#### ・ネギ祭り&ゆざわ未来づくり学校祭

朝関係者で集合し、打ち合わせをした後、10時からスタートした。地域住民の方が多く足を運んでくださり、私たちのブースもすぐに人でいっぱいになった。私は薬学部という特徴を知ってもらうためにも希望者の方には血圧測定を行って、みなさんの健康に寄り添うブースへの入り口を作った。また、本題では自分自身が第Ⅰ期るときからみなさんと話すことが好きだなと感じていたこと、来年以降も湯沢に関わっていきたいと思ったことをポスターで伝え、みなさんの目標に少しでも力になればいいなという思いで、「みなさんが1年後にしたいことは何ですか？」という問いを投げかけた。それを紙に書いていただき、写真を撮らせていただいた。みなさんそれぞれ個性を出しながら書いてくださり、「また来年も来てくれるの？嬉しいね」と言ってくくださる方もいて、心が温かくなった。

地域づくり協議会会長の会田さんは私たちの活動をずっと見てきたことで背中を押され、この度市議会議員に立候補するという事実を前日のBBQのときに教えてくださった。私たちが影響を与えたすごさを感じながらも、会田さんのまっすぐな思いに心打たれた。この日は選挙活動が始まる日で、ネギ祭りが開催された会場付近にも演説をしに来てくださった。70歳を過ぎた中での新たな挑戦に私も刺激をいただいた。

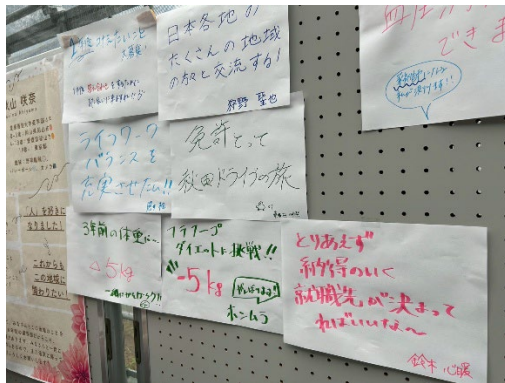
#### ・慰労会

秋ノ宮山荘で慰労会が行われ、院内地区・秋ノ宮地区のみなさん40~50名が足を運んでくださった。第Ⅰ期るときからお話したいと思っていたいんない未来塾に所属しており、仙台市在住ながらも院内の関係人口の1人である鈴木千春さんとお話する機会をいただいた。都会ならではのトークだけでなく、都会からの関わり方について深くお話を伺うことができた。最後には大学生1人ずつからみなさんへお話する機会もいただき、改めて感謝の言葉を伝えさせていただいた。

そして秋ノ宮山荘にあるカラオケブースで二次会のような打ち上げも参加した。その後

Asov!vaメンバーのみなさん数人が宿にまた顔を出してくださり、本当に心から楽しい時間で、みなさんの愛に溢れた行動に本当に感謝しています。

第Ⅱ期のときから準備していた、みなさんへの感謝を伝える冊子や、それぞれがお世話になった人へのお手紙など、渡すことができ、みなさんの思いも聞くことができ本当に嬉しく思います。





**秋山 咲奈**  
Sakina Akiyama

慶應義塾大学薬学部4年  
0~3歳：岡山県岡山市  
4~18歳：愛媛県松山市  
19歳~：東京都

趣味：野球観戦、  
バレーボール、カメラ

---

院内・秋ノ宮の魅力  
人の温かさ  
人・地域との深いつながり  
「まず自分たちが楽しむこと！」

みなさんと今日したいこと  
“お茶っこ”の中で、  
1年後私と一緒に叶えたいこと、  
聞かせてください！

メッセージ  
8~10月で湯沢を訪れて、みなさんとこの地域のことを  
大好きになりました！6年制の薬学部だからこそ、  
来年も学生という特権があります。みなさんと一緒に  
叶えたいこと、たくさんあるので、また湯沢に帰って  
きます！！これからもよろしくお願いします！



### 3.4.4. 10月13日

#### ・振り返り

やり切った気持ちもありつつ、本当にすべてのプログラムが終わってしまったのかという喪失感もありつつ、コーディネーターの方や藤田さんも含めた振り返りを行った。一人一人から思いを伝える中で、私は自分の経歴については各地でお話できていたので、まだ伝えきれていなかった学生一人一人に対して感謝の言葉を伝えた。伝えている途中、抑えていた涙が溢れる場面もあったが、言葉にして伝えられて本当によかったなと感じている。言葉だけでは伝えきれない、参加しないとわからないこの場の温かさには本当に感謝していますし、何と言ってもこの大学生6人でなければここまでやってこれなかったなという思いもある。誰一人としては欠けてはならない存在であることを改めて感じた。ここでもずっと内緒にしていたコーディネーターの方へお手紙を渡すことができ良かったと思う。



### 3.4.5. 第Ⅲ期を振り返って

第Ⅲ期のゆざわ未来づくり学校祭に向けて、ずっと駆け抜けてきた3か月間、終わった後は本当に終わったのかもわからないくらいの達成感と充実感に溢れていました。改めてここまで多くの方々を支えられて、充実した活動ができていたこと、みなさんからの愛情を感じることができて、本当に嬉しく思いました。これからも湯沢に関わりたと思った私だからこそ、どこかこれで終わりという感じがせず、「また会いに来るので！」と言って別れられたこの出会いに本当に感謝しています。

## 4.各参加者の学び

### 4.1.秋山咲奈（慶應義塾大学薬学部4年）

私は去年稚内での地域診断実習に参加させていただきました。その際も本当に素敵なメンバーに出会い、素敵な経験をさせていただきました。去年の活動の充実度が忘れられず、今年はファシリテーターの役目で違う地域に参加させていただきたいと思ったことが、参加理由です。最初は違う地域のファシリテーターをする予定でしたが、春田先生からのお誘いもあり、秋田県湯沢市での実習に参加させていただきました。最初は8月~10月までの長期的なスケジュールで、慶應の学生も1人という事実には不安もありました。また、湯沢市での実習は医療というより地域づくりの体験という趣旨の内容だったため、あまり想像ができなかった部分があったことも覚えています。ただ、去年稚内で医療に関するアクションプランを提示させていただいたこと、違う大学の方との交流はなかなかないと感じたこともあり、秋田県湯沢市での実習参加を決めました。

実際にプログラムに参加すると、かなり自由度が高く、学生それぞれがやりたいこと、興味があるものをコーディネーターの方がヒアリングしてくださったり、報告会や慰労会の進め方も学生で話し合っただけで進めさせていただいたり、充実したものになりました。特にコーディネーターの方も一緒に衣食住を共にすることで、稚内のときにはなかった地域の方との夜の時間の交流が私の中でかなり大きなものになりました。そして、私が考えていることを自由に発言できる環境を常に整えてくださっていたことで、自分でこのプログラムを作り上げているような感覚になりました。

日々の活動報告で書いた通りですが、院内地区のみなさんも秋ノ宮地区のみなさんも本当に温かい方ばかりで、多くの場面で助けていただきました。みなさんのおかげでこの実習がとても充実したものになり、心から感謝申し上げます。最後の慰労会で地域のみなさんにはお話させていただいたのですが、私はこのプログラムの中で縁の連続だったと感じています。もし藤田さんがこのプログラムを計画してくださっていなかったら、もし私が秋田県湯沢市に来ることになっていなかったら、もしみなさんが地域づくりをやりたい！大学生と関わりたい！と思っていなかったら、お会いすることがなかったかもしれないと思うと、この出会いは本当に素敵なもので、よく悪い意味で捉えられる「たら・れば」という言葉もいい意味で使っていることもあるんじゃないかと感じることができました。

そしてこの14日間ずっと一緒にいた学生メンバーのみなさんには感謝してもきれないくらいの感謝があります。秋田県に来るのが初めてで、ミズ・じゅんさい・ちよろぎなど初めて食べる食材が多くあったり、高齢者の方の方言が分からなかったりする私に対して、一つ一つ丁寧に教えてくれました。また、お互いが悩んだり、迷ったりしていること、大人に言いづらいと思っていることも素直に共有して、気が楽になったことで14日間だけでなく、3か月を乗り越えることができました。

この秋田県湯沢市で過ごした毎日大切な宝物です。経験させていただいたすべての思い出は私にとってかけがえのないもので、地域ってこうあるべきだよな、こういう地域に私も関わりたいと医療から離れて、自分の人生についても考えることができた時間でした。

実習が終わった後もいつでも来ていいよと言ってくださるみなさんがいて、12月に忘年会をやったり、2月の雪まつりに招待していただいたりなど、今でも関わりがあります。それはまさに私の理想でした。私は来年のこのプログラムにオブザーバーとして企画、運営の立場で参加させていただく予定です。一人でも多くの方に同じような感動をしていただければいいなと思います。

本当に長いようで短かったこの3か月間、支えてくださった秋田県庁の藤田さん、コーディネーターの菅さん、鹿角さんをはじめ、地域の皆様に心より感謝申し上げます。そして、

私の活動を見守ってくださり、このような貴重な機会を提供して下さった慶應義塾大学の先生方にも深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

以下、他大学のメンバーの言葉は省略させていただきます。

4.2. 一條花（東北大学教育学部 3 年）

4.3. 狩野聖也（秋田大学教育文化学部 1 年）

4.4. 東海林明梨（秋田大学教育文化学部 1 年）

4.5. 鈴木心暖（国際教養大学国際教養学部 4 年）

4.6. 照井楓（秋田大学教育文化学部 4 年）

## 5. 謝辞

今回の実習のコーディネーターである菅善徳氏には取材の調整や送迎等様々な支援を賜りました。ここに深謝の意を表します。

湯沢市役所の皆様、院内地区センター、雄勝スポーツセンターの皆様、いんない未来塾、Asov!vaの皆様には私たちをあたたかく迎え入れ、活動拠点や宿泊地を提供して下さるなどの特別な支援を賜りました。

ここには書き切れないほど多くの方々に出会い、お話をお伺いしました。この実習に関わって下さった全ての皆様に心より感謝申し上げます。